

# 中一 国語科通信

第6号  
平成30年12月20日  
国語科1年担当  
奥池・狭間



新品の手帳の一月まず開き  
子の誕生日を赤で囲みぬ

## 百字の獅子

少し前になりますが、先月十五日に第三回の「百字の獅子」を実施しました。今回のテーマは「茶」「働く」「仕事」「七五三」の三つ。「茶」からは、色を連想したりお茶を連想したりと、バリエーション豊かでした。まさかの「加藤茶」も登場しましたね(苦笑)。今回も三人ずつ紹介します。

〈七五三〉

「七五三のピロピロ」

一組 K君

私は七五三のときにもらうピロピロが好きではない。今年、妹が七五三でもらい、一日中吹いていた。ピロピロと音を立てながら長く伸びたり縮んだりしているのは、自分の中間や期末テストの成績に、すごく似ている。

◆まず題名でグワシッ！とつかまれ、最後のオチでまたやられました。たとえが本当に面白い。

〈働く〉

「人のために」

一組 Y君

人はなぜ働くのだろうか。ある人はお金のため、またある人は、自分の仕事で、幸せになる誰かがいるからと答えるだろう。私は、人のために働き、たくさんの人を幸せにすることが、人が働くたった一つの理由だと思う。

◆そういう尊い気持ちで仕事をしたいと日々思っているけれど、心身に疲労困憊になると初心を忘れてしまいます……(反省)。

〈七五三〉

「行事」

二組 N君

「七五三」とは昔からある行事であり男子は五歳、女子は三歳と七歳のときに行われる子供のための行事である。ずっと昔から受け継がれてきたのは、やはり今も昔も変わらない、子供を思う親の気持ちの表れだと言える。

◆「七五三」に込められた、いつの時代も変わらない親子の愛がひしひしと伝わってくる文章でした。

## 校外学習

『古事記』を巡る  
旅はいかがでしたか？  
授業では終わってしまいましたが、マンガ等、読みやすいものたくさん出ているので、ぜひ「中巻」以降も読んでみてくださいね。

シラムマラソン 第六回

「なないろの日々」

日高由里子

一年生の皆さん、お久しぶりです。二〇一八年はどんな年でしたか？私は、あつという間で色鮮やかな一年だったなあ。

近況をざっとご報告。七緒は、おむく太って『千と千尋の神隠し』に出てくる「坊」そっくりに。結太は、お兄ちゃん業に勤しんでいます。私は、家事＆育児(と育夫)が思った以上に大変で、白髪が増えました。そんな中で、心の隅隅には一中のみんながいて、アタマの隅隅には国語の授業があつて、いろんなものを見ては「国語の授業でみんなこんなことができたらいなあ」と思っています。

ところで、赤ちゃんって本当にすごい！七緒は最近、話しかけると顔をくしゃくしゃにして、声を立てて笑うようになりました。動きかける人がいて、それに応えようとして、できることを日々増やしていくんですね。皆さんにもいろんな場面でのいろんな働きかけがあるはず。しっかり応えていきましようね。  
来る年が、笑顔いっぱいよい年になりますように。

〈茶〉

「文化」

一組 Sさん

私は昔、少しの間茶道を習っていて、茶道という日本の文化に触れた。お茶はとても温かく、教室の人は皆優しくだったので、いつも心と体が温まった。そんな文化を外国の人たちにもっと知ってもらうことができれば良い。

◆今年亡くなった樹木希林さんの「日是好日」という映画を観ました。茶室の空気は本当に、どこまでも温かくて、スクリーンのこちらにまでそれが伝わってくるようでした。穏やかなSさんにぴったりの雰囲気だと思いました。

〈茶〉

「なぜ、茶色？」

二組 Eさん

なぜ、茶色は緑茶の茶に色と書いて茶色というのだろうか。たしかに、お茶には茶色の物もあるが、お茶と言われて緑色のお茶を思い浮かべる人も多いのではないだろうか。なぜ、昔の人は茶色を茶色と呼んだのだろうか。

◆「確かに！」と思いました。日常の中に隠れた疑問を見つけ出した視点の鋭さに拍手です！

〈仕事〉

「大切な仕事」

二組 Fさん

世界にはさまざまな仕事がある。そして、なくても良い仕事なんてないと思う。だから、どんな仕事をしていても感謝や尊敬は、忘れてはいけないと私は思っている。また学業も学生の仕事だ。だから私は頑張ろうと思う。

◆「仕事」が支える世界、そしてその中の自分自身へと目を向けていく。そんな広い視点がよく表れていますね。